

日本海洋科学振興財団

海外渡航費用援助 報告書

2019 年 9 月 26 日

氏名 飯田 瑞生

所属機関(院生は大学院と研究科名)

東北大学 大学院理学研究科

職名(学生は学年) 修士2年

渡航期間 2019 年 9 月 10 日— 2019 年 9 月 20 日

渡航先*

Honolulu (United States of America)

渡航目的とその成果、感想

私は Ocean Obs' 19 に参加しました。各セッションでは主に、海洋観測の現状と今後の見通しについて活発な議論がなされていました。会場の規模が大きいため、質問は参加者個人の PC・スマホ端末を通して投稿できるシステムとなっていました。また休憩時間にはハワイの爽やかな青空が伺える吹き抜けのフロアで、参加者各々がコーヒー・軽食を手にとり談話を楽しむ様子も印象的でした。海外で行われる国際学会に初めて参加した私は、今まで経験してきた学会とは全く違う雰囲気を味わうことができました。

今回私は、「Influence of the interannual-scale Bering Sea ice variation on cold air outbreaks」というタイトルでポスター発表を行いました。慣れない英語での解説には苦勞しましたが、私にとっては自身の研究が海外の方の目に触れる貴重な経験となりました。他のポスター発表の内容もユニークなものが多く、型にはまらない自由な雰囲気を感ずることができました。

また会議開催前にはハワイ大学に滞在し、Bo Qiu 教授を訪問しました。大気場とベーリング海海氷の相互作用の解明を中心に議論を交わし、その中で新たな課題や貴重な意見をいただくことができました。今後、より質の高い研究成果をあげられるよう活かしたいと思っております。